

科目名 (科目番号)	病 理 学 (時間割参照)	教員名 石崎 正通	学科等	診療放射線	選択	履修年次	2
			曜日・時限等	時間割表参照	単位数	2	
			オフィスアワー		—	非常勤講師	
授業概要	生体に発生する疾患がどのような原因によって生じ、どのような形態的变化を示すか、これらの疾患や病質がどのような経過を経て治癒あるいは悪化するかについて学習する。いわば人間の疾病理解の基礎となる病理発症、進展転帰、病因等、疾患概念の本質を学習する。具体的には組織障害(退行性変化)、再生と修復(進行性変化)、循環障害、炎症論、免疫病理、腫瘍病理などを中心に学習する。到達目標は病理学的用語の意味を知りそれを正しく使用出来る様にする。						
準備学習	毎回の授業について少なくとも1時間程度の予習・復習をすること。						
授業計画	回	授業項目	到達目標・学習内容				
	1	病理学とは、病因論	到達目標: 病因には外界から作用する外因と生体側の因子の内因が有ることを知る。 学習内容: 疾病の原因を明らかにする領域を病因論といいこれについて学ぶ。				
	2	退行性変化Ⅰ 細胞、組織の障害	到達目標: 細胞、組織の萎縮、変性、細胞死(壊死、アポトーシス)について知る。 学習内容: 障害因子によって受ける受動的な変化について学習する。				
	3	退行性変化Ⅱ 代謝障害(物質沈着)1	到達目標: 代謝障害によるタンパク質、脂質、糖質等の細胞、組織沈着による病変について理解する。 学習内容: 障害因子によって受ける受動的な変化について学習する。				
	4	退行性変化Ⅲ 代謝障害(物質沈着)2	到達目標: 代謝障害による各種色素、カルシウム等の細胞、組織沈着による病変について知る。 学習内容: 障害因子によって受ける受動的な変化について学習する。				
	5	進行性変化(再生と修復)Ⅰ	到達目標: 創傷の治癒と肉芽組織について学び理解する。 学習内容: 病因の侵襲に対する細胞や組織の能動的な変化について学習する。				
	6	進行性変化(再生と修復)Ⅱ	到達目標: 異物の処理、細胞の再生、肥大と過形成、化生について学び理解する。 学習内容: 病因の侵襲に対する細胞や組織の能動的な変化について学習する。				
	7	循環障害Ⅰ	到達目標: 充血、うっ血、貧血、出血、血栓症 等について知る。 学習内容: 血液系、リンパ系の異常によって生ずる病変について学ぶ。				
	8	循環障害Ⅱ	到達目標: 塞栓症、梗塞、ショック、浮腫、脱水 等について知る。 学習内容: 血液系、リンパ系の異常によって生ずる病変について学ぶ。				
	9	炎症Ⅰ	到達目標: 炎症の基本的変化を理解し、各種炎症のうち滲出性炎について知る。 学習内容: 炎症は退行性病変、循環障害、進行性病変などを示す複雑な変化であり、これについて学習する。				
	10	炎症Ⅱ	到達目標: 各種炎症(変質性炎、壊疽性炎、増殖性炎、特殊性炎 等)について知る。 学習内容: 炎症は退行性病変、循環障害、進行性病変などを示す複雑な変化であり、これについて学習する。				
	11	免疫Ⅰ	到達目標: 免疫の基本的な事柄について理解する。 学習内容: 免疫: は自己の恒常性を守る機構であるが、時にはアレルギー等の自己にとって障害を起こすことを学ぶ。				
	12	免疫Ⅱ	到達目標: アレルギー、自己免疫疾患、免疫不全症 等について理解する。 学習内容: 免疫: は自己の恒常性を守る機構であるが、時にはアレルギー等の自己にとって障害を起こすことを学ぶ。				
	13	腫瘍性病変Ⅰ	到達目標: 良性と悪性の違いについて学ぶ。 学習内容: 腫瘍とは突然変異によって異常な細胞が生じ、自律的に過剰増殖を起こすもので良性と悪性があることを学ぶ。				
	14	腫瘍性病変Ⅱ	到達目標: 上皮性、非上皮性の悪性、良性それぞれの違いについて理解する。腫瘍の進展、腫瘍マーカーについて知る。 学習内容: 腫瘍はさらに上皮性、非上皮性に分類される事を学ぶ。				
15	先天性疾患	到達目標: 特に染色体、遺伝子の異常によるものを中心に学び理解する。 学習内容: 外因、内因による、出生児にすでに存在する異常について学習する。					
成績評価の方法・基準	5択問題等による終講テスト(100%)で評価する。						
教科書	特に定めない						
参考図書	系統看護学講座 病理学	大橋健一 編			医学書院		
教員からのメッセージ	講義時間中に試験問題についても話すので集中力を保つこと。						